



Q 高校生になると男女交際が活発になるので、行き過ぎが心配です。

A 異性との交際について、日頃から親の考えを伝えておきましょう。

思春期の子供の相談にのって、いた助産師さんは、親が積極的に性の話をすると、性が身近なものになり、ハードルが下がる可能性があるといます。性のテーマは親子でも気軽に話せないものだと感じさせるくらいで、ちょうどいいのかもしれない。物分かりのいい親を演じる必要はなく、まして親が友達のようになり、彼氏や彼女のことまで盛り上がる必要はありません。

子供たちを取り巻く環境は、コミックでもインターネットでも、刺激的な情報が飛び込んできます。ですから、「親を悲しませることをしてはいけない」と釘をさしておきましょう。

子供の心にブレーキを働かせるには、善悪の認知的側面だけでは弱く、情緒的側面がより重

が関わるといいでしょう。

恋愛は自己中心的で相手を縛り、自分たちだけの閉ざされた世界をつくりがちです。それにこの時期はアイデンティティが確立されていないので自信がなく、相手からの賞賛を求めたり、評価を気にしたりします。そのため「重く」感じ、長続きしにくい傾向があります。

青年期は感受性に優れ、趣味やスポーツなどに自分を打ち込み、努力することで成長します。将来への夢を持ち、交友の幅を広げることが大切だと、親の考えを伝えたらどうでしょうか。

Q 親の言うことより、友達の言うことのほうが大事みたいです。

A 他の年代の人より、友達との関係が強くなります。

損得抜きで一生活きあえる友人ができるのも青年期ならではです。友達は合わせ鏡のようなもので、友達を通して自己考察が深まります。

友達になるには内面をさらけ出すことも必要で、傷付けることもありますが、その過程が内面を成長させてくれます。

スマートフォンの普及で、子供の友人関係がわかりにくくなったと言う親御さんが多いようです。反抗期の子供に、「誰とどこに」出かけるのか、聞けないという方もいますが、普段から会話のなかで子供の友人関係を把握しておきましょう。

腫れものに触るように接しないで、業務連絡 だと思えばいいのです。サナギから蝶に変化するように、思春期を抜ければさばけた大人になっているでしょう。

●ワンポイント・アドバイス

子供の思春期は親の子離れ期です。手を出し過ぎないことが、親子双方にとって程よい距離感になります。

子供が帰りが遅いと怒るなど、子供を縛ってしまうのです。

そこを「遅かったね」と、一呼吸おける親には、子供も「実はね」と返すことができるでしょう。親が心底信じて、親子をつなぐ糸が長くなり、深いところで通じるようになります。

子供はやがて自立します。24〜25歳ぐらいまでの青年期では、進路も生きがいも自分なりに選択して決めます。ですから、この時期は「目を離せ、心を離すな」で、必要以上の干渉は親のためにも子のためにもなりません。親離れ、子離れの段階で、親御さんも自分の人生を生き、深いところで親子の絆を結び直すのだと考えるといいでしょう。



Q 親の言葉に耳を貸さなくなり、子供が遠くに行つたようです。

A 深いところで絆を結び直す時期です。

絆というとは良い意味ですが、もともとは自由を束縛する

「しがらみ」と同じ意味です。親子をつなぐ糸が短いと、たとえ